

巻頭言 子どもたちへのメッセージ

島田 義也

Shimada Yoshiya

((公財) 環境科学技術研究所)



「子どもを守って！」

これは、2011年の東京電力福島第一原発事故において母親たちの一番の願いでした。事故直後から放射線医学総合研究所では24時間体制で電話相談を立ち上げました。「うちの孫は大きくなってちゃんと子どもが産めますか?」「お腹の子どもは中絶した方が良いですか?」と何度も質問を受けました。ネットやテレビでは、放射線の恐怖を煽る報道がされ、母親が不安になるのも無理はない状況でした。衝撃的だったのは、お子さん自身から「先生、ぼくはがんになるのですか?」と質問を受けたことでした!お子さんにもきちんと説明することの大切さを感じました。

そして、2020年。新型コロナウイルスの拡大で世界はパニック状態です。感染の不安だけでなく、学校の休止、休業、外出自粛、文化的活動や娯楽の禁止、医療体制の危機など、社会に大きな支障をきたしています。テレビから流れてくるニュースは、感染者が、どこで何人増えたとか、誰が死んだとかを繰り返し、恐怖を煽るばかりです。感染者や医療者に対する差別も始まっています。原発事故の時と重なります。

急に、学校が休みになり、お友だちとも会えなければ子どもたちも不安になり、ストレスもたまります。子どもたちへの丁寧な説明が必要です。そんな時、デンマークの mette・フレデリクセン首相が、「子どものための記者会見」をしました(北欧ヒュゲリニュース: <https://hyggelig-news.com/2020/03/14/17404/>)。

エマ: コロナウイルスの隔離対策中でも外出していいのですか?

首相: 外出して大丈夫です。むしろ、ぜひ外に出かけてください。森や自然の中での散歩などは非常に良いことです。ただし、お互いから距離を取ることを忘れないでください。

パウラ: 来週、22人の友だちを呼んで屋外で誕生日会をやってもいいですか?

首相: まず始めに誕生日おめでとう。残念ですが、22人が一斉に集まるのは多すぎるので、誕生日会は延期することを勧めます。

ユリー: もし私のおばあちゃんが感染したら、死んでしまうのでしょうか?

首相: 怖がる必要はないですが、周りの人たち、特にお年寄りには大事にして助け合ってください。

アンドレアス: もし首相自身が感染したらどうしますか?

首相: 私が感染することもあり得ます。その場合は、首相としての仕事を自宅隔離の状態で続けるつもりです。

子どもたちにしばらくの間の我慢を直接お願いし、疑問に対しても真摯に答えています。このような対応が、将来、国を背負う子どもたちに、考える力を養い、自立を促し、責任ある行動がとれる大人への成長につながっていくのだと思います。困難に直面したとき、分かりやすい言葉で現状を伝え、問題にどう立ち向かうか、そのメリットとデメリットを話し合い、合意を形成し、一緒に行動することが、今、問われているのではないかと思います。

9年前の原発事故の時に学んだ寺田寅彦、日野原重明先生のことばを紹介します。人間教育の原点が伝わってきます。

「人間はいくら知識や学問があっても、やさしいところがなければ立派な人間とは言えない。」

「自分を相手に置き換える想像力を、身につけたいものである。」

「人のために自分を捧げる喜びを知っている人を、プロと言います。」

「これまでは、できあがったデータを記憶させる教育であった。本当に学ぶべきは、困難な問題にぶつかったときに、問題解決のために、どう取り組むか、どういう戦略を立てるかと言うことである。」